

AA日本ニューズレター

私書箱

☎100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

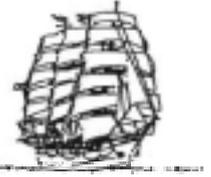


AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-590-5377 ☎171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F



No.24

グループに活力を！



昨年、全国的に統一されたサービス体系を目指すために生まれた日本ゼネラル・サービス・ミーティングが、本年11月23日～25日の三日間にわたり第2回目の会合を開くことになりました。関東地域6名、中部・北陸地域2名、関西地域2名、中国・四国地域2名、九州・沖縄地域2名、北海道、東北、甲信越地域は各1名の計17名の各地から選出された評議員に、オフィス幹事、ワールド・サービス・ミーティング評議員、J S O オフィススタッフ、運営事務局のメンバーを加え、全国の仲間の経験と希望の分かち合いの上に、現在日本のAAが抱えている各種の問題について話し合いを持つことになりましたが、多くの問題の中で最大のものと言えば、やはりグループに活力が失われているということではないでしょうか。

先日、シアトルで開かれたAA 55周年記念集會に参加して帰って来た仲間が異口同音に『向こうの仲間の若さとバイタリティーに圧倒された』と言っていますが、55年の歴史をもつアメリカのAAを15年の若さを誇らなければならない日本のAAメンバーが見て、その若さに驚くというのは何か不自然な気がしてなりません。

落ち着きは無気力とは違います。冷静とは無感動を意味しません。賢さとは世故に長けることではないでしょう。自分の感情を殺し取り澄ました顔をして、人前を取り繕うことが出来るという事ではないでしょう。仮面をかぶった人生を送るために12のステップは用意されたものではありません。

AAから与えて貰うことが出来た新しい命の突き上げるような喜びがミーティング会場に溢れ、この喜びを次の仲間に伝えようと自発的にメッセージを伝える相手や場所を探し出すという、活きたAAグループは残念なことに非常に少なくなっているように思えてなりません。

前号の紙面にも外部の関係者の意見として、AAがつまらなくなったという、私達にとっては耳の痛い記事が掲載されましたが、言われて見ればもっともなことであり、少しでもソーバーの期間を持つ仲間なら、同じような感覚を覚えているのではないのでしょうか。グループの中に問題があるのは少なからず耳にいたします。例を上げれば、病院や保健所にメッセージ

に行く仲間がいつも決まった顔触れである、会計やミーティング・チェアパーソンのようなグループの仕事をやってくれる仲間がいない、ミーティングには出て来て飲まないではいるのだが、決まったグループを持つともしなければ、スポンサーを持つともしないメンバーが増えている、メンバーの間で意見の食い違いがあると何人かの仲間と語らって、別のグループの名乗りを上げるのだが、ただミーティングを開いているだけで、代議員を選出する、地区や地域の集會の役割を果たす、新しい仲間メッセージを運ぶと言った基本的なグループとしての責任を果たそうとはしない等々、数え上げれば限りがないのではないのでしょうか。

一つの目標をもってそれに対し仲間が協力もしていくところに活気が生まれます。活気があれば仲間を引き付け輪(和)の中に包み込めるのです。燃え盛る炎の中に投げ込まれば生の木でも燃えます。そして新しいエネルギーを補給し、常に力強く、燃え盛り、移り火もあれば飛び火を生むことが出来ます。

最初にも書いたように15才と言えば青春真っ盛りの年頃です。青春とは感性に曇りが無く、恐れる事なく自分の限界に対して挑戦する気概に満ち溢れ、将来に夢と希望しか見ない時期のはずです。

日本のAAに今必要とされているのはこの青春の煮えたぎる熱き血潮なのです。AAは『最終的責任と究極の権威はAAグループにある』と明確に謳っています。そしてそのグループの血と肉は一人一人のメンバーなのです。その血を今こそ燃え上がらせようではありませんか。今全国には百数十のグループがあり、ミーティングに出席する仲間の数も確実に増加の一途をたどっていますが、残念なことに離れて行くメンバーも少なくありません。

今、一人一人のメンバーが『何か自分にグループのために役立つことはないか』との意識のもとに新しい提案をグループに投げ掛ければ、それだけで若さはグループに甦るのです。皆様の提案がグループで討議され、地区、地域に反映され、それを持ち寄って全国地域評議員の間で共通の問題として考察を繰り返されたときに、再び皆様のグループに持ち帰られる新しい命の源が生まれるのです。

基本に帰ろう 再びシアトル55周年から



シアトルで行われた55周年の参加者から伝えられた熱気に圧倒され、参加できなかった私はせめてその雰囲気を感じ取りたいと、テープを取り寄せた。この4日間に及びミーティングやイベントは全てテープに収録され(もちろん参加者は事前にこれを了解している)誰でもが入手出来るようになっていた。同時に開催されたアラノンのコンベンションにしても同様である。AAの一体性や運営について特に関心の強い私は、例えばAAのアノニミティーや方針、伝統7について、というようなミーティングのテープを注文して聞いてみた。

それらを聞いて心動かされたのは、その参加者たちが実によくAAの出版物を読んでいて、常にAAで言われていることを引用しながら、自分自身の経験を書いている場合が多かった。例えば、ブックブックの何章の何ページでビルはこう言っているけれど、私の場合は・・・とか。疑問に思ったことをスポンサーに相談したら、ではAAでは何と言っているか一緒にAAの本から答えを探してみようと言われたとか。ワークショップの自由発言のコーナーで質問が出ても、パネラーの答えは、誰もAAの代弁者ではないのでこれはあくまでも私個人の意見だが、と断りな

がらも、それはガイドラインや何々のパンフではこう言っているのだから、あなたもぜひそのガイドラインやパンフを読んで考えて欲しいとか。つまり常にAAのプログラムの基本に戻って、その基本を確認しながら答えを見いだしていくということが自然に行われていることだった。

AAのパンフレットを読むたびに毎回新しい発見がある。同じパンフレットを何度読んでも毎回驚きがある。いつも読むたびに、なんだ答えはここにちゃんと書かれていたんじゃないかと思う。一度読んで総てを理解したつもりになっても、ページを閉じた途端に全部を忘れてまた同じ苦勞をする。「知らない」とか「分からない」ことは少しも恥ずかしいことではないと私は思っている。大事なのは、自分は知らなくて分からないことを知っていることだと思ふ。知らないから、忘れていたからAAの出版物のページを繰り、どうやって解決できるかの糸口を探っていく。どこかに必ず答えがある。だからここJSOで何かの問題について相談を受けたときには、せめてその答えが見付けられそうなパンフレットのタイトルを挙げられるくらいに、AAの出版物と馴染んでいきたいと思う。

そして同時に日本のAAの出版局としては、理解し易い文章でAA出版物を翻訳していく責任を改めて強く感じた次第である。AAの仕事というのはキリが無いものである。だからおもしろい。

JSO 山本

第2回日本ゼネラル・サービス・ミーティング開催のお知らせ

冒頭の記事でも触れているように、全国の8地域から選出された評議員とW・S・M評議員を初めとするレギュラーメンバーが一堂に会し、今後の日本のAAの進むべき進路について話し合う、第2回目の会合が下記の要領により開催されます。プログラムは既に全国のグループに届いているものと思いますが、このミーティング・プログラムは総ての仲間に開放されたものです。普段は触れることの出来ない遠く離れたグループの各種の情報を身近に得られる又とない機会です。多くの仲間の参加をお待ちしております。

尚、第1日目の23日の15:30がオープン・ミーティング17:00~19:00がウェルカム・ディナーパーティー、19:00~21:00がワールド・サービス・ミーティング評議員の報告集会和、誰が参加しても価値あるものを持ち帰られるプログラムを用意しました。

記

テーマ グループに活力を

期日 1990年11月23日24日25日

会場 ホテルB & G
東京都江東区深川1-6-3

料金

宿泊代	1泊	5700円
昼食	1食	1000円
パーティー		3000円
朝食		1000円
夕食		1500円



《のんでもAA》

浦河赤十字病院

医師 川村 敏明



北海道を南北に縦断する日高山脈が、鋭く太平洋につき出た最南端がえりも岬。そこから波で洗われるような海岸の国道を、約1時間ドライブすると我が町浦河です。札幌までは更に3時間半という北海道の片田舎です。日高の山々を背に眼前に太平洋を配し、広々とした緑豊かな牧場に囲まれた町です。

全国的には競走馬サラブレッドの生産地として有名です。この美しいのどかに見える町にも、数多くのアルコール中毒者が生活し、毎日生きるドラマを展開しています。この町に昭和57年7月、酒臭まき散らす4、5人の仲間が集まりAAが誕生しました。

当時この町のアル中社会は数少ない断酒者(断酒会)と、数多い酩酊者で構成されていました。アル中社会のエリートである断酒グループと、落ちこぼれである酩酊グループという色分けで、犬猿の仲のようにいつ果てるともない実りのない議論が続いている状態でした。時に酩酊グループから死亡者が出ると、アル中社会の激論は一時中断。他人事ではない我が身を案じた数人は、酔ってふらつく身体で入院という始末です。

酩酊グループの仲間達はアル中社会の中でさえ落ちこぼれ、まさに生きる目標を見失っていたと言えるでしょう。酒を止められないという同じ問題を抱えながら、酔っ払い仲間の中のトラブルも連続ドラマのように毎日続いたのでした。

札幌や帯広のAAの仲間からメッセージがこの町の酩酊グループの仲間達に届けられ、教会を会場とするAAミーティングが始まりました。『飲むな』とは強制されない『止めたい』という願望だけで集まると

ころとして、止められない中毒者が、毎回全員が酔っている状態でミーティングが続けられたのです。『飲んででもいい』からミーティングに行こうという言葉が、いつの間にか『飲んでAA』という言葉に変わってしまったのです。

ミーティング・ステップ・ハイパーパワー・ソプラエティーなど、一度も聞いたことのない言葉が出て来るミーティングで、やっと理解できた言葉が、AA(エーエー)、しかも『飲んでAA』だったので。わが町の中毒者の語学力はまさに天才的と言えるでしょう。飲んでAAのスローガンに救われたAAグループは酒の力を借りながらの元気な仲間達でした。ミーティングの日も、ミーティングのない日も、雨の日も風の日も『どうしたら酒を止められるか』と酔いながら真剣に語り合うという見事なまでのアル中らしい毎日を続けていたのです。

約3年間AAミーティングは続けられました。その間出席した我が町のアル中諸君は、唯一人の例外もなく必ず全員が『飲んでAA』を実行し続けたのです。昭和60年春、桜の花が散るころ世にも珍しいAA浦河グループは、酔い潰れたかのように中断となりました。その後『飲んでAA』グループの仲間の一人が帯広の中間施設に入所しました。

飲まないで生きるという画期的なプログラムを体験し、昭和62年5月AA浦河グループは再出発したのです。AAミーティングは毎日15人くらいが出席し続けられています。

👉 ぐるーぷ 便り 👈

三鷹グループ

三鷹グループは東京、武蔵野にあります。日本基督教団三鷹緑教会で毎週月曜日にオープン・ミーティングを開いています。昨年の10月に発足したばかりですが、当初2名だったメンバーも今は8名となっています。ミーティングは入院中の出席者、他のグループからのビジター、とホームメンバーという感じで行っています。今度同市内に新しく教会を借りることができ、9/21日より毎週金曜日にステップミーティングを開いております。

メンバーの熱意もさることながら、大切な教会を貸して下さる教会の人達、入院中の仲間を出席させて下さる病院スタッフを初めとする周囲の暖かい好意と配慮によって、グループも少しずつ成長しているような気がしています。男性、女性、独身者、家族持ち、2

0代の若い仲間、50代の若い仲間とそれぞれの経験と希望と力を分かち合っています。10月に一周年を迎えますので、何かフェロシップをと考えています。案内が届きましたら多くの仲間の参加をいただき、新たな出会いを楽しみたいと願っています。

小山グループ

今年の6月、栃木県の小山に新しいグループが生まれ、今日までヨチヨチと歩いて参りました。県下には宇都宮にグループが一つありますが、県南地区からそちらに通う仲間も増えたのですが、地方の交通の便は都内や都市近郊に比べ非常に悪く、夜の9時以降にはバスが無くなり乗れないという仲間も多いのです。そこで自分達の土地にもグループをと言う声が自然に沸いてグループが生まれました。

現在のところ、ミーティングを開いているだけで表立っての活動は出来てはいませんが、地区の保健所にはメッセージを届けています。東北本線と両毛線、水戸線の交わる交通の要所ですし、茨城県の南部と接し、急行の次の駅には、同じ時期に生まれた古河グループもあります。AAの盛んな埼玉地区とも近いことから、これから新しい仲間が増えることを期待出来るグループと自分達では思っています。

全国の皆様、これから宜しく仲間に加えて下さい。

HAPPY・HOURグループ

春に生まれた Happy Hour (幸福な時間) グループは、大阪キタの街で毎週、金、土、日曜日7時から8時までミーティングを行っています。大阪の街は季節感の無い街。けれどここにはあるんです。特に土曜日のミーティング場などは、夏はアフリカ、冬は北極のように寒いところなんですから.....。

メンバーは現在男女7人。かつてこの人は最悪のケースと呼ばれた先行く仲間が3人、そして今なおフラフラ・ヨチヨチの私達二十代、三十代の若い仲間が絡んでは、いつも何だかんだともめながらやっています。けれども、私はこんな仲間がとても好きで、そんな仲間がとっても大切なんです。

グループは春に生まれて、夏を過ぎ冬に向かおうとしていますが、メンバーはいつもいろんなグループの仲間と共に、今日の自分を見詰めミーティングで触れるメッセージを大切にしたいと願っています。そして新しいメンバーの登場を期待しながら、自分達にしか出来ない、けれど止まりがちになる行動を決して諦めてしまわないよう、お互いに励ましあっているのです。いつの時も仲間との触れ合いがあって、そばにはメッセージがあって、そしていつもそこに『幸福な時間』がありますように。 HAPPY・HOURへようこそ

第11回ワールド・サービス・ミーティング

特別献金に感謝

紙面を通じ、又各グループに直接呼び掛けてお願いした、W・S・M評議員派遣の特別献金は、皆様の力強いご支援と善意に支えられ、締め切り日を待たずに目標金額を達成することが出来ました。

心から御礼申し上げます。

この大切な献金により2名の評議員が10月14日から、東西が統一された新しいドイツのミュンヘンで開催される『12の概念』をメインテーマにしたワールド・サービスMに向けて旅立って行きました。

本紙がお手元に届くころには既に帰国されているこ

とと思いますが、AAの先輩国である多くの仲間から貴重な経験と希望を分け与えられ、今後の私達日本のAAの発展に寄与する『力』を持ち帰られる事を希望しております。この結果は11月23日に、東京で開催される日本ゼネラル・サービス・ミーティングの中で報告されるのを皮切りに、各地での報告会、又、グループへの報告書等の文書による報告で皆様の元に届くことになっております。

日本ゼネラル・サービス・ミーティング
財務委員会

90 越生ラウンドアップ実行委員会より



越生ラウンドアップの締め切り(11/5)が迫っています。お忘れの方は急いでお申し込み下さい。ラッフルの献品、ラッフル券の購入も重ねてお願いいたします。

「原稿募集のお願い」

以前にもこの紙面をお借りし、全国の仲間宛て『個人の物語』の原稿を依頼しましたが、お陰様で何人かの仲間から原稿が寄せられました。しかし、現在集まっている量では本として出版するには些か不足しますので、再度皆様に寄稿をお願いします。

原稿枚数は四百字詰め原稿用紙で20枚程度、縦書き横書きどちらでも結構です。内容は勿論、『かつてどのようであったか、何が起こったか、今どのようであるかを大まかに明らかにしていただくもので』お願いいたします。戴いた原稿の著作権はJ S O 出版局に移

管させていただきます。

又編集上の都合から一部に手を加えたり、変更が行われることもあると思いますが、その都度著作者に連絡を取りご了承願うものとします。全国に散らばった多くの仲間の経験が一冊の本を通して、思いもよらぬ多くの仲間と分かち合えることの素晴らしさを思い起こし、多くの仲間からの寄稿をお待ちしています。

日本ゼネラル・サービス・ミーティング 文書委員会

